

## 評価結果概要表

### 【評価実施概要】

事業所名	医療法人あろう会 まいホームひまわり		
所在地	山口県岩国市車町1丁目8-12		
電話番号	0827-24-1517	事業所番号	3570800528
法人名	医療法人あろう会		

訪問調査日	平成 20 年 8 月 28 日	評価確定日	平成 20 年 11 月 25 日
評価機関の名称及び所在地	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク 山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		

### 【情報提供票より】

#### (1) 組織概要

開設年月日	平成 13 年 5 月 15 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員計	18 人
職員数	18 人	常勤 12 人 非常勤 6 人 (常勤換算 12 人)	

#### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨スレートぶき 造り	
	2 階建ての	1 ~ 2 階部分

#### (3) 利用料等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃	月額 30,000円または40,000 円	敷金	無	円
保証金	無	円	償却の有無	
食費	朝食	300 円	昼食	300 円
	夕食	400 円	おやつ	0 円
その他の費用	月額 10,000 円			
	内訳 光熱水費 共益費			

#### (4) 利用者の概要 (8月1日現在)

利用者数	18 名	男性 1 名	女性 17 名	
	要介護1	3	要介護4	1
	要介護2	7	要介護5	
	要介護3	7	要支援2	
年齢	平均 83 歳	最低 74 歳	最高 95 歳	

#### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医科 中川医院 川下整形外科 いいい記念病院 歯科 安田歯科医院
---------	-------------------------------------

### 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

#### (優れている点)

市街地に立地しており、買い物や、美容院、受診等の利便性が高く、利用者は髪染めやカット、爪のマニキュア等のおしゃれも楽しみながら、出来る範囲で家事にも参加し、穏やかに豊かに暮らしておられました。経営母体が医療法人のため、医療連携や緊急時の支援体制が整っており、利用者や家族、職員の安心につながっています。

#### (特徴的な取組等)

市街地にありながら地域連携があり、地域行事への参加や地域内の幼稚園との交流、お寺さんの法話会、防災への助言、ホームからの回覧版発行への協力等があり、毎朝、花壇の整理にこられるボランティアさんも居られます。3ヶ月に1回開催される家族会は意見も多く寄せられ、サービスや運営についても共通理解を深めています。同法人が運営するデイケアに参加し、機能の維持向上を図ると共に、地区内の高齢者と交流しふれあいを深めています。

#### 【重点項目への取組状況】

##### (前回の評価結果に対するその後の取組状況)

評価結果について、職員はカンファレンスで共通理解を行うと共に、運営推進会議や家族会においても結果説明を行い、地域向けホーム便りを地域に回覧できる運びとなりました。苦情解決第三者委員の選任など継続して課題として残った事項は現在もその実現に向けて検討中です。

##### (今回の自己評価の取組状況)

全職員で取り組み検討協議をしながら自己評価を行い、最終的には管理者が取りまとめを行いました。

##### (運営推進会議の取組状況)

2ヶ月に1回自治会長・幼稚園園長・福祉委員・民生委員・地区消防団長・地域包括支援センター職員・利用者家族を構成員として開催されています。地域や家族会の代表者が参加しておられますので、実践的な地域協力や連携についても話し合われています。

##### (家族との連携状況)

毎月、ホーム便りを発行し、利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理状況をお知らせしています。家族会も3ヶ月に1回開催され、共通理解のための会議が行われています。

##### (地域との連携状況)

自治会に加入し、回覧版を廻したり、地域行事に参加したり、近隣の幼稚園児との交流も行われています。地域の消防団長や自治会長、毎朝花壇の手入れをしてくださるボランティアさん、法話会をしてくださるお寺さん等、地域の方々との連携や協力支援があります。

## 評価結果

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営 1. 理念の共有			
1 (1)	<b>地域密着型サービスとしての理念</b> 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	利用者が地域の中でその人らしく尊厳を持って暮らせるよう、管理者、職員で話し合いを深め、事業所独自の理念を作り上げている。	
2 (2)	<b>理念の共有と日々の取り組み</b> 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	各フロアに掲示すると共に、管理者と職員は会議等でも確認し合いながら、理念の実践に向けて取り組んでいる。	
2. 地域との支えあい			
3 (7)	<b>地域とのつきあい</b> 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	自治会に加入しており、地域の行事や幼稚園、小学校の運動会へ参加し、ホームの納涼祭でも地域の方々と交流している。	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
4 (9)	<b>評価の意義の理解と活用</b> 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	運営者、管理者、職員共に自己評価及び外部評価の意義を理解しており、カンファレンスや運営推進会議、家族会で報告して、地域向けホーム便り発行の運びとなった。その他の検討事項についても実現に向けて努力している。	
5 (10)	<b>運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	運営推進会議は2ヶ月に1回、自治会長・幼稚園園長・福祉委員・民生委員・地区消防団長・地域包括支援センター職員・家族等を構成員として開催されており、災害時の対応等についても提案されるなど、活発に意見交換が行われている。	
6 (11)	<b>市町との連携</b> 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	必要に応じ相談助言をもらい、サービスの質の向上に努めている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践する為の体制			
7 (16)	<b>家族等への報告</b> 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	ホーム便りを毎月発行し、利用者の暮らしぶりや健康状態を知らせると共に、必要に応じ、新任職員の紹介やホームからの連絡事項を書き添えて郵送している。金銭出納については面会時に報告し確認してもらっている。	
8 (18)	<b>運営に関する家族等意見の反映</b> 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	苦情相談の窓口や対応は明らかにされており、外部機関も明示されている。相談や苦情が出しやすいよう玄関に目安箱を設置しているが、第三者委員の選任はない。三ヶ月に一回開催される家族会も意見や要望を出せる場になっている。	・第三者委員の選任
9 (20)	<b>柔軟な対応に向けた勤務調整</b> 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	ホームの行事や職員の急な休み等、必要に応じ人員配置の増員や休みの職員への振替等で柔軟に対応している。夜勤者は各ユニットにそれぞれ一名配置されている。	
10 (21)	<b>職員の異動等による影響への配慮</b> 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、変わる場合は利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	異動は極力抑えるようにしているが、退職による体制づくりのための異動は行われており、利用者の寂しさにつながらないようにとの考えから、顔馴染みの関係づくりの目的でも各ユニットでの交流をしている。職員のコミュニケーションを大切に離職を最小限に抑えるよう努力している。	
5. 人材の育成と支援			
11 (22)	<b>職員を育てる取り組み</b> 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員の経験に応じた外部研修を受講できるようにしている。法人内でもテーマを決め三ヶ月に一回の研修を行っている。	
12 (24)	<b>同業者との交流を通じた向上</b> 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	グループホーム連絡協議会や地域密着型事業所連絡協議会に加入し、研修会や情報交換会、相互訪問等を行い、サービスの質の向上に役立っている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>・安心と信頼に向けた関係づくりと支援</p> <p>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>			
13 (31)	<p><b>馴染みながらのサービス利用</b></p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	入居前に利用者と家族に見学をしてもらっている。行事に参加が可能な場合は入居前からでも参加してもらっている。生活歴や希望を聞き、職員間で共有し、馴染みやすい環境づくりを行っている。	
<p>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>			
14 (32)	<p><b>本人と共に過ごし支えあう関係</b></p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	ゆっくり話をしながら、家事や暮らしを共にすることにより喜怒哀楽を共有し、利用者から学んだり、支え合う関係を作っている。	
<p>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> <p>1. 一人ひとりの把握</p>			
15 (38)	<p><b>思いや意向の把握</b></p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	日常のコミュニケーションや言動、表情などから本人の希望や意向を把握するように努めている。	
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>			
16 (41)	<p><b>チームで作る利用者本位の介護計画</b></p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。</p>	1ヶ月に3回のミーティングを行い、本人や家族の意向を聞いた上でスタッフや関係者と協議しながら介護計画を作成している。	
17 (42)	<p><b>現状に即した介護計画の見直し</b></p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行なうとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	3ヶ月毎に見直し、変化が生じた時は担当者、計画作成担当者、家族とも話し合い、その都度新たな計画を作成している。	
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>			
18 (44)	<p><b>事業所の多機能性を活かした支援</b></p> <p>本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>	利用者の希望に合わせ、理美容院、買い物、医療受診、デイケア利用を支援している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
19 (49)	<b>かかりつけ医の受診支援</b> 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	本人や家族の希望を尊重しながら、かかりつけ医を決め、受診の援助や医師との関係づくり、情報提供等を行い、適切に医療が受けられるよう支援している。	
20 (53)	<b>重度化や終末期に向けた方針の共有</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	重度化指針が作成されており、家族、かかりつけ医、協力医とも話し合いを行い、全員で方針を共有している。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
21 (56)	<b>プライバシーの確保の徹底</b> 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	一人ひとりの誇りや人格を尊重した言葉かけや対応がされており、記録などの個人情報の取扱いにも配慮されていた。	
22 (59)	<b>日々のその人らしい暮らし</b> 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人ひとりの希望や状態に合わせて生活が送れるよう支援している。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
23 (61)	<b>食事を楽しむことのできる支援</b> 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	できる人は準備や後片付け等を職員と共に行っており、和やかな雰囲気である。職員も同じ食事を取りながら、さりげなく食事に対する支援を行っていた。	
24 (64)	<b>入浴を楽しむことができる支援</b> 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	1日おきの入浴であるが、希望に応じ毎日でも可能である。希望により清拭や夕食後の入浴にも対応している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
25 (66)	<b>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	生活歴を参考に楽しみ事や張り合いのある生活ができるよう支援している。ホームが市街地にあるので、買い物や美容院へ行き、ホーム内ではマニキュアやカットなどのおしゃれも楽しんでいる。	
26 (68)	<b>日常的な外出支援</b> 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	希望に応じ、買い物や散歩、法人内のデイケアへの交流参加など出かける機会を作っている。	
(4) 安心と安全を支える支援			
27 (74)	<b>身体拘束をしないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が、「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	身体の抑制や拘束、薬や言葉による拘束はしていない。研修や会議などで理解し拘束のないケアに取り組んでいる。	
28 (75)	<b>鍵をかけないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	市街地に立地し、ホーム前は車道となっているため、家族会からの希望も考慮して安全第一の視点から施錠している。空気の入替え等で開錠をした事もあるが、察知できない外出もあり、危険性を経験したことで施錠している。	・個別支援計画の検討の継続
29 (78)	<b>事故防止のための取り組み</b> 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	マニュアルを作成し、3ヶ月に1回、テーマを決めて事故対応の勉強会をしている。	
30 (79)	<b>急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	マニュアルを作成し勉強会を行っている、全職員が消防署の協力による救急救命講習を受けている。夜間も含めて緊急時は協力医や看護師の支援体制がつけられている。	
31 (81)	<b>災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	火災についての避難訓練は年一回行っている。地震や水害についてのマニュアルはあるが、想定した訓練はしていない。地域の協力については運営推進会議で繰り返し協力を依頼している。	・定期的な避難訓練 ・地震、水害を想定した訓練

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
32 (84)	<b>服薬支援</b> 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	個人ごとに服薬ファイルを作成し、使用している薬について理解している。薬は一回毎に手渡し服薬を確認している。必要な情報は医師に提供している。	
33 (86)	<b>口腔内の清潔保持</b> 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力量に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	毎食後一人ひとりに口腔ケアの支援をしており、義歯や歯ブラシの清掃保管についても支援している。	
34 (87)	<b>栄養摂取や水分確保の支援</b> 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	献立には食材や使用量を記載し、バランスの取れた食事が提供できているか見なおしをしている。食事摂取量の記録や定期的な体重測定などにより栄養状態の把握に努めている。	・栄養士による助言の検討
35 (88)	<b>感染症予防</b> 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	感染症マニュアルを作成し、実行している。ホーム内には手指の消毒器や空気清浄器が設置されている。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
36 (91)	<b>居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	共用空間の音や明るさは適切で配慮されている。ソファやテレビが置かれ団欒や憩いの場が作られ、季節感が感じられるよう季節の花や七夕飾りなどを飾っている。	
37 (93)	<b>居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室には箆箆や机、生活用品など、利用者の馴染みの物が持ち込まれ、壁にはコルクボードが設置され好きな写真や、作品などが飾られており、自分の部屋として安心して過ごせるようにしている。	

# 自己評価書

## 【ホームの概要】

事業所名	医療法人 あろう会 まいホームひまわり
所在地	山口県岩国市車町1丁目8番12号
電話番号	0827-24-1517
開設年月日	平成 13 年 5 月 15 日

## 【サービスの特徴】

平成13年5月15日に6人定員で創めたグループホームを移転して増設したので、以前の家庭的な雰囲気はそのまま残している。市街地に立地している為、買い物・通院・美容院の利用にも便利である。診療所が経営母体であるので、様態急変時の対応や日常的健康管理も出来、家族にとっても安心である。通所リハビリなども利用しているので、入居者以外の地域の高齢者ともコミュニケーションがとれ、集団生活にも参加できる。自治会にも参加しており、同自治会にある幼稚園とも交流を持たせて頂いている。

## 【実施ユニットの概要】 (7月20日現在)

ユニットの名称	1階		
ユニットの定員	9 名		
ユニットの利用者数	9 名	男性 0 名	女性 9 名
	要介護1		要介護4
	要介護2		要介護5
	要介護3		要支援2
年齢構成	平均 83 歳	最低 95 歳	最高 74 歳

## 【自己評価の実施体制】

実施方法	職員全員で検討・記入を行い、最終的に管理者が確認を行った。
評価確定日	平成 年 月 日



## 自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印、(取り 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>理念に基づく運営</p> <p>1. 理念の共有</p>			
1 (1)	<p><b>地域密着型サービスとしての理念</b> 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。</p>		
2 (2)	<p><b>理念の共有と日々の取り組み</b> 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>		
3	<p><b>運営理念の明示</b> 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。</p>		
4	<p><b>運営者や管理者の取り組み</b> 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえて、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。</p>		
5	<p><b>家族や地域への理念の浸透</b> 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>		
<p>2. 地域との支えあい</p>			
6	<p><b>隣近所とのつきあい</b> 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえようような日常的な付き合いができるよう努めている。</p>		地域の方の頻繁な出入りは無い為、交流を深めていきたい。
7 (3)	<p><b>地域とのつきあい</b> 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>		
8	<p><b>事業所の力を活かした地域貢献</b> 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>		今のところ、デイ利用者のみとの交流に止まっている。まずは、地域の高齢者と交流を持つ機会を検討していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
9	<b>評価の意義の理解と活用</b> 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	再確認し又、客観的意見を取り入れることで、サービスの質の改善と向上を目指している。	
10 (5)	<b>運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	会議内では評価・改善報告を行っており、構成委員の意見も取り入れている。	
11 (6)	<b>市町との連携</b> 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	行き来する事はあまり無いが、何かあればアドバイスを頂いている。	
12	<b>権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。	必要な方は現在既に活用されている。	制度についての勉強会を開きたいと思う。
13	<b>虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	入浴時等、入居者の身体に痣等がないか確認を行っている。スピーチロック等に関しても、職員同士で注意を払っている。	虐待防止関連法について勉強会を開きたいと思う。
4. 理念を実践するための体制			
14	<b>契約に関する説明と納得</b> 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	内容については、十分な説明を行い理解・納得を得た上で契約を交わしている。	
15	<b>運営に関する利用者意見の反映</b> 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	玄関に目安箱を設置しており、フロア内には第三者委員の情報掲示を行っている。	
16 (7)	<b>家族等への報告</b> 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	毎月新聞を発行し、利用者の近況等書き添え郵送しており、面会時には各自出納帳の確認・捺印をいただいている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17 <b>情報開示要求への対応</b> 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。	要請があればいつでも開示出来るようにしている。		
18 (8) <b>運営に関する家族等意見の反映</b> 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	玄関に目安箱を設置しており、家族会にて意見を聴く機会を設けている。また、苦情窓口・外部機関連絡先をフロア内に掲示している。		
19 <b>運営に関する職員意見の反映</b> 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	カンファレンスや日常勤務内にて、意見交換を積極的に行っている。		
20 (9) <b>柔軟な対応に向けた勤務調整</b> 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	比較的、急な勤務交代にも対応を行っている。		十分な人員確保を行っていきたい。
21 (10) <b>職員の異動等による影響への配慮</b> 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	異動の際は、勤務を少しずつ別ユニットに移し利用者のダメージを最小限に抑える配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援			
22 (11) <b>職員を育てる取り組み</b> 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	勤務内として、職員個々に見合った研修参加を斡旋している。又法人内での3ヶ月に1度の勉強会も行っている。		
23 <b>職員配置への取り組み</b> 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。	男性職員は居ないが、年齢は20歳～60歳まで幅広く経験も様々な職員を確保している。		
24 (12) <b>同業者との交流を通じた向上</b> 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	グループホーム連絡会・地域密着事業者連絡会に加入しており、研修会・相互訪問に参加している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	<b>職員のストレス軽減に向けた取り組み</b> 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	忘年会・行事打ち上げを行っている。		
26	<b>向上心を持って働き続けるための取り組み</b> 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	運営者と管理者は連絡を密に取り、各職員の現状を把握している。		
27	<b>職員の業務に対する適切な評価</b> 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。	役職手当等にて評価している。		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
28	<b>初期に築く本人との信頼関係</b> 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	入居前に事前訪問を行い、出来るだけ本人とのコミュニケーションを取るよう努めている。		
29	<b>初期に築く家族との信頼関係</b> 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	見学时より細かな情報交換を行っている。		
30	<b>初期対応の見極めと支援</b> 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	見学の際に情報交換を行い、現在の本人に合ったサービスのアドバイスを行っている。		
31 (13)	<b>馴染みながらのサービス利用</b> 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	事前に必ず本人と家族に見学に来て頂いている。行事などに参加して貰い、お互いに確認し合う場合もある。又これまでの経過・生活歴を事前に提出して頂き、職員間で情報の共有も行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
32 (14)	<b>本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	個々の残存機能を見極め、可能な限りの家事を共に行い生活を送っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
33	<b>本人を共に支えあう家族との関係</b> 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	各利用者様で差が出ている。(面会の頻度)本人一緒に支えていく関係が不十分だと思われる。		職員・本人・家族がもっと一緒に出来る事を見つける。(外出等)
34	<b>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</b> これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	家族の状況も出来るだけ把握し無理なく深い関係が続けていける様、本人の状態を細かく伝えていき、来所し易い雰囲気作りに努めている。場合によっては、コミュニケーションの橋渡しもする。		
35	<b>馴染みの人や場との関係継続の支援</b> 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	今までずっと行かれていた美容院やお寺、馴染みのお店などに行って頂く事で、人との関係も途切れない様支援している。		
36	<b>利用者同士の関係の支援</b> 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	気の合う者同士で固まってしまうが、出来るだけ孤立しない様又無理のない程度で、利用者同士が関われる様職員が橋渡しとなっている。		
37	<b>関係を断ち切らない取り組み</b> サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	サービス利用が終了しても、関わりを必要・望まれる場合は出来るだけ断ち切らない様、対応させて頂く。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握				
38 (15)	<b>思いや意向の把握</b> 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	基本的には、本人の意思に任せているがこちらが声掛けにて促している事もあり。		
39	<b>これまでの暮らしの把握</b> 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	これまでの本人の暮らし等、御家族や本人から聞かせて頂いたり、バックグラウンドを見て把握している。		
40	<b>暮らしの現状の把握</b> 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	毎日バイタルチェックを行い、日々の健康状態を知り、その事も含め個々に合わせた過ごし方が出来るよう努めている。又申し送りも的確に行い変化把握をしている。有する力は作業等習慣として		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
41 (16)	<b>チームで作る利用者本位の介護計画</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	御家族や関係者と情報交換は行っているが、介護計画としての活用・反映が余り出来ていないように思う。	介護計画についても、お互いに意見を出し合いケアに活用していきたい。
42 (17)	<b>現状に即した介護計画の見直し</b> 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	3ヶ月に1度見直しを行っているが、変化があった場合は内容を変更し現在の本人に見合った計画にしている。	
43	<b>個別の記録と実践への反映</b> 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日常の変化や気づきなどは記録し、大事な事は特別な申し送りノートと二重にして職員全員が共有出来る様にしているが、計画に沿った記録としては不十分である。	介護計画について重要性を再確認し、最大限活用できるよう記録方法等を検討していく。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
44 (18)	<b>事業所の多機能性を活かした支援</b> 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	受診や外出等、状況を見て要望に応じている。	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
45	<b>地域資源との協働</b> 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	民生委員には運営推進会議に参加を頂いており、警察や消防にも協力を働き掛けている。又ボランティアも積極的に受け入れている。	
46	<b>事業所の地域への開放</b> 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)。	見学はいつでも受け入れている。又幼稚園や小学校の運動会などに参加させて頂く事で、GHという物を知って頂く機会を作っている。	
47	<b>他のサービスの活用支援</b> 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	母体医院のデイサービスや他デイサービスの活用を行っている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	<p><b>地域包括支援センターとの協働</b> 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。</p>		今後地域包括センターと共同方針を検討してみたい。
49 (19)	<p><b>かかりつけ医の受診支援</b> 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>		
50	<p><b>認知症の専門医等の受診支援</b> 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>		
51	<p><b>看護職との協働</b> 利用者をよく知る看護職員(母体施設の看護師等)あるいは地域の看護職(かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等)と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>		
52	<p><b>早期退院に向けた医療機関との協働</b> 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>		
53 (20)	<p><b>重度化や終末期に向けた方針の共有</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>		書面上ではなく現実味を持ち、具体的な重度化指針を検討していきたい。
54	<p><b>重度化や終末期に向けたチームでの支援</b> 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>		書面上ではなく現実味を持ち、具体的な重度化指針を検討していきたい。
55	<p><b>住み替え時の協働によるダメージの防止</b> 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
56 (21)	<p><b>プライバシーの確保の徹底</b></p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	<p>自尊心を傷つせずプライバシーを守る対応に努め、記録等の個人情報の持ち出しは勿論、処理する場合はそのまま破棄せずシュレッダーにかけプライバシーの保護をしている。</p>	
57	<p><b>利用者の希望の表出や自己決定の支援</b></p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>個々に合った声掛けや対応を行っており、選択し自己決定出来る様な言葉かけを行っている。</p>	
58	<p><b>“できる力”を大切にされた家事への支援</b></p> <p>家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。</p>	<p>家事以外でも本人の出来る力を活かし、継続して頂けるような事を見つけていく事も大切にしている。</p>	
59 (22)	<p><b>日々のその人らしい暮らし</b></p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>利用者様から提案して下さる事もあり、それぞれに応じた生活を送って頂いている。</p>	
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
60	<p><b>身だしなみやおしゃれの支援</b></p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>入居者のADLやその日の体調に合わせ、衣類の選択・着衣の支援をしている。又、定期的にマニキュア等希望に応じている。地域の美容院や出張カットの方の理解と協力があるので、体調や希望に応じて併用している。</p>	
61 (23)	<p><b>食事を楽しむことのできる支援</b></p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>苦手な食材や調理法があれば、その入居者の好みに応じている。食事形態も状態に応じている。準備・片付けは出来る範囲で一緒に行っている。</p>	<p>実際の調理や盛り付け配膳は職員が殆ど行っているため、提供という形ではなく共同生活という負荷を減らしてホーム内に出していきたい。</p>
62	<p><b>本人の嗜好の支援</b></p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。</p>	<p>おやつは一緒に買い物に行った際、望むものがあれば購入し提供している。自己管理は難しいので、食べ物に関しては台所にて預らせて頂いている。お酒に関しては利用者が望んでも転倒等の恐れがある為提供はしていない。</p>	
63	<p><b>気持ちのよい排泄の支援</b></p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。</p>	<p>入居者のADLに応じ対応している。紙パンツを使用している場合、出来るだけトイレでの排泄が出来る様、トイレ誘導や声掛けを行っている。</p>	



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
64 (24)	<b>入浴を楽しむことができる支援</b> 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入居者に寄り添う時間を増やす為、1日置きの入浴としているが本人の強い希望や失禁の有無等に応じて臨機応変に対応している。午後から入浴して頂いているが、希望があれば清拭や夕食後の入浴にも応じている。		
65	<b>安眠休息の支援</b> 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。	就寝・起床時間が余りに遅い・早い場合には時間をお伝えしているが、基本的には本人の意思に任せている。又前日の睡眠時間や薬の副作用を考慮しながら夜間の良民が得られる様、配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
66 (25)	<b>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	入居時にお聞きしていた趣味や生活歴を把握し、その場面の提供を行っている。又同時に出来る事を見つけ、活躍の場が増える様配慮している。		
67	<b>お金の所持や使うことの支援</b> 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	普段、所持金は全て鍵付き金庫で事務所管理としている。外出や買い物時には利用者の状態に応じ、支払い等行って頂く事もある。		
68 (26)	<b>日常的な外出支援</b> 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	体調を考慮し、職員付き添いの下、買い物・散歩と希望に応じている。又週に1~2度デイケア・リハビリも利用している。		
69	<b>普段行けない場所への外出支援</b> 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	個別外出には応じているが、普段は行けない遠出などには対応していない。お寺やお墓参りには御家族と一緒にさせて頂いている。		個別に希望を聞き出し、外出支援を行っていききたい。
70	<b>電話や手紙の支援</b> 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	年賀状や暑中見舞いは出して頂いているが、その他の手紙のやり取りはない。電話も希望されれば、深夜や早朝以外でなければ応じている。		
71	<b>家族や馴染みの人の訪問支援</b> 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	来所された方とは職員も積極的にコミュニケーションを図り、来所されやすい雰囲気作りに努めている。		
72	<b>家族の付き添いへの支援</b> 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。	今のところ希望は無いが、家族が希望されれば対応する。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
73 <b>家族が参加しやすい行事の実践</b> 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。	納涼祭やクリスマス会やボランティア来所を計画し、参加頂いている。		
(4)安心と安全を支える支援			
74 (27) <b>身体拘束をしないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	抑制・拘束はしておらず、傍での見守り・付き添い・意思を尊重した声掛けでの援助を徹底している。		
75 (28) <b>鍵をかけないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	玄関には終日施錠を行っているが、家族からは安全の為に了承を頂いており同意書も交わしている。又開錠できる状態の時は、出来るだけ開錠をしている。		
76 <b>利用者の安全確認</b> 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	日中は圧迫感を感じさせない様、出来るだけ自由に過ごして頂いている。居室で長時間過ごされる際は、安全確認も兼ねて時々声掛け訪室を行っている。夜間は基本的に2時間毎に巡室を行っている。		
77 <b>注意の必要な物品の保管・管理</b> 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	はさみ・爪切り・針等は基本的には預かっているが、手作業等に必要の場合は付き添いながら使用している。状態によっては自己管理にしている物品もある。		
78 (29) <b>事故防止のための取り組み</b> 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	マニュアルを作成し活用している。又、3ヶ月に1度母体医院の医師・看護師による事故対応勉強会も行っている。		
79 (30) <b>急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	マニュアルを作成し活用している。又、3ヶ月に1度母体医院の医師・看護師による事故対応勉強会も行っている。全職員、消防署による救命講習も受講している。		
80 <b>再発防止への取り組み</b> 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や”ヒヤリはっと報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。	可能性の時点でヒヤリはっと記入を行っており、改善策も記入している。またカンファレンスでも対応を検討し再発防止に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
81 (31)	<b>災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。		地震・水害等に関しては
82	<b>リスク対応に関する家族等との話し合い</b> 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
83	<b>体調変化の早期発見と対応</b> 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。		
84 (32)	<b>服薬支援</b> 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。		
85	<b>便秘の予防と対応</b> 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。		
86 (33)	<b>口腔内の清潔保持</b> 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。		
87 (34)	<b>栄養摂取や水分確保の支援</b> 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。		
88 (35)	<b>感染症予防</b> 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。		
89	<b>食材の管理</b> 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
90	<b>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</b> 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関ホールには観葉植物、外には花を置き温かい雰囲気が出せるよう心掛けています。	
91 (36)	<b>居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	雑音を省く為、食事や作業中は混乱を招かない様にTVを消して心地良い音楽をかけている。又、七夕飾り等で季節を感じて頂いている。	
92	<b>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</b> 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	TVの前にはソファを設置し、団らんの場にして頂いている。また、玄関・玄関付近にはソファを設置し、居室とは別に独りになれる空間も確保している。	
93 (37)	<b>居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	御家族には、入居時に使い慣れた物品の搬入をお願いしている。又、TV・たんす・机など本人に必要なと感じるものは家族に相談し、購入して個々の部屋作りをしている。	
94	<b>換気・空調の配慮</b> 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	エアコンを使用し、なるべく一定の温度や湿度を保つよう配慮している。	
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
95	<b>身体機能を活かした安全な環境づくり</b> 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送ることができるように工夫している。	不必要なものは配置せず、足元や頭の高さに注意をし環境づくりを行っている。	
96	<b>わかる力を活かした環境づくり</b> 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	1人1人の能力を職員全員が把握し対応している。	
97	<b>建物の外周や空間の活用</b> 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	庭には畑を作り、イモ掘りなどを行っている。花も植えて目でも楽しんで頂いている。ベランダではバーベキューをしたり日光浴にも使用している。	

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	
. サービスの成果に関する項目			
98	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	ほぼ全ての利用者の 利用者の1 / 3 くらいの	利用者の2 / 3 くらいの ほとんど掴んでいない
99	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	毎日ある たまにある	数日に1回程度ある ほとんどない
100	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
101	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
102	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
103	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
104	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
105	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	ほぼ全ての家族等と 家族の1 / 3 くらいと	家族の2 / 3 くらいと ほとんどできていない
106	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	ほぼ毎日のように たまに	数日に1回程度 ほとんどない
107	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	大いに増えている あまり増えていない	少しずつ増えている 全くいない
108	職員は、生き活きと働けている。	ほぼ全ての職員が 職員の1 / 3 くらいが	職員の2 / 3 くらいが ほとんどいない
109	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
110	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	ほぼ全ての家族等が 家族等の1 / 3 くらいが	家族等の2 / 3 くらいが ほとんどできていない

# 自己評価書

## 【ホームの概要】

事業所名	医療法人 あろう会 まいホームひまわり
所在地	山口県岩国市車町1丁目8-12
電話番号	0827-24-1517
開設年月日	平成13年5月15日

## 【サービスの特徴】

平成13年5月15日に6人定員で創めたグループホームを移転して増設したので、以前の家庭的な雰囲気はそのまま残している。市街地に立地している為、買い物・通院・美容院の利用にも便利である。診療所が経営母体であるので、様態急変時の対応や日常的健康管理も出来、家族にとっても安心である。通所リハビリなども利用しているので、入居者以外の地域の高齢者ともコミュニケーションがとれ、集団生活にも参加できる。自治会にも参加しており、同自治会にある幼稚園とも交流を持たせて頂いている。

## 【実施ユニットの概要】 (7月20日現在)

ユニットの名称	2階		
ユニットの定員	9名		
ユニットの利用者数	9名	男性 1名	女性 8名
	要介護1	1	要介護4
	要介護2	3	要介護5
	要介護3	5	要支援2
年齢構成	平均 83歳	最低 75歳	最高 91歳

## 【自己評価の実施体制】

実施方法	職員全員で検討・記入を行い、最終的に管理者が確認を行った。
評価確定日	平成 年 月 日

## 自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印・(取り 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>理念に基づく運営</p> <p>1. 理念の共有</p>			
1 (1)	<p><b>地域密着型サービスとしての理念</b> 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。</p>		自治会の一員として、地域の行事には積極的に参加している。又デイサービスの利用も行っており、地域の高齢者との交流も図っている。
2 (2)	<p><b>理念の共有と日々の取り組み</b> 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>		月1回のユニットカンファレンス・3ヶ月に1度の合同カンファレンスにて、日々取り組んでいる。
3	<p><b>運営理念の明示</b> 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。</p>		運営理念を事務所内に掲示しており、常時職員全員が再確認しながら従事している。
4	<p><b>運営者や管理者の取り組み</b> 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえて、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。</p>		月1回のユニットカンファレンス・3ヶ月に1度の合同カンファレンスにて、ケアプランの検討やケアサービスについて話し合っている。
5	<p><b>家族や地域への理念の浸透</b> 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>		2ヶ月に1度の運営推進会議、3ヶ月に1度の家族会にて運営報告や意見交換を行っている。
<p>2. 地域との支えあい</p>			
6	<p><b>隣近所とのつきあい</b> 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえようような日常的な付き合いができるよう努めている。</p>		散歩時の挨拶は利用者と共に歩いており、行事等への参加の呼び掛けも行っている。
7 (3)	<p><b>地域とのつきあい</b> 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>		自治会の一員として、地域の行事には積極的に参加している。
8	<p><b>事業所の力を活かした地域貢献</b> 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>		参加可能な行事には、参加の呼びかけをしている。
			今のところ、デイ利用者のみとの交流に止まっている。まずは、地域の高齢者と交流を持つ機会を検討していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
9	<b>評価の意義の理解と活用</b> 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	再確認し又、客観的意見を取り入れることで、サービスの質の改善と向上を目指している。	
10 (5)	<b>運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	会議内では評価・改善報告を行っており、構成委員の意見も取り入れている。	
11 (6)	<b>市町との連携</b> 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	行き来する事はあまり無いが、何かあればアドバイスを頂いている。	
12	<b>権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。	必要な方は現在既に活用されている。	制度についての勉強会を開きたいと思う。
13	<b>虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	入浴時等、入居者の身体に痣等がないか確認を行っている。スピーチロック等に関しても、職員同士で注意を払っている。	虐待防止関連法について勉強会を開きたいと思う。
4. 理念を実践するための体制			
14	<b>契約に関する説明と納得</b> 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	内容については、十分な説明を行い理解・納得を得た上で契約を交わしている。	
15	<b>運営に関する利用者意見の反映</b> 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	玄関に目安箱を設置しており、フロア内には第三者委員の情報掲示を行っている。	
16 (7)	<b>家族等への報告</b> 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	毎月新聞を発行し、利用者の近況等書き添え郵送しており、面会時には各自出納帳の確認・捺印をいただいている。	



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17 <b>情報開示要求への対応</b> 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。	要請があればいつでも開示出来るようにしている。		
18 (8) <b>運営に関する家族等意見の反映</b> 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	玄関に目安箱を設置しており、家族会にて意見を聴く機会を設けている。また、苦情窓口・外部機関連絡先をフロア内に掲示している。		
19 <b>運営に関する職員意見の反映</b> 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	カンファレンスや日常勤務内にて、意見交換を積極的に行っている。		
20 (9) <b>柔軟な対応に向けた勤務調整</b> 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	比較的、急な勤務交代にも対応を行っている。		十分な人員確保を行っていきたい。
21 (10) <b>職員の異動等による影響への配慮</b> 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	異動の際は、勤務を少しずつ別ユニットに移し利用者のダメージを最小限に抑える配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援			
22 (11) <b>職員を育てる取り組み</b> 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	勤務内として、職員個々に見合った研修参加を斡旋している。又法人内での3ヶ月に1度の勉強会も行っている。		
23 <b>職員配置への取り組み</b> 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。	男性職員は居ないが、年齢は20歳～60歳まで幅広く経験も様々な職員を確保している。		
24 (12) <b>同業者との交流を通じた向上</b> 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	グループホーム連絡会・地域密着事業者連絡会に加入しており、研修会・相互訪問に参加している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	<b>職員のストレス軽減に向けた取り組み</b> 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。		
26	<b>向上心を持って働き続けるための取り組み</b> 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。		
27	<b>職員の業務に対する適切な評価</b> 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
28	<b>初期に築く本人との信頼関係</b> 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		
29	<b>初期に築く家族との信頼関係</b> 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		
30	<b>初期対応の見極めと支援</b> 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
31 (13)	<b>馴染みながらのサービス利用</b> 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
32 (14)	<b>本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
33	<p><b>本人を共に支えあう家族との関係</b> 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。</p>		職員・本人・家族がもっと一緒に出来る事を見つける。(外出等)
34	<p><b>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</b> これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。</p>		
35	<p><b>馴染みの人や場との関係継続の支援</b> 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>		
36	<p><b>利用者同士の関係の支援</b> 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。</p>		
37	<p><b>関係を断ち切らない取り組み</b> サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。</p>		
<p>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握</p>			
38 (15)	<p><b>思いや意向の把握</b> 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>		
39	<p><b>これまでの暮らしの把握</b> 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。</p>		
40	<p><b>暮らしの現状の把握</b> 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
41 (16)	<b>チームで作る利用者本位の介護計画</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	御家族や関係者と情報交換は行っているが、介護計画としての活用・反映が余り出来ていないように思う。	介護計画についても、お互いに意見を出し合いケアに活用していきたい。
42 (17)	<b>現状に即した介護計画の見直し</b> 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	3ヶ月に1度見直しを行っているが、変化があった場合は内容を変更し現在の本人に見合った計画にしている。	
43	<b>個別の記録と実践への反映</b> 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日常の変化や気づきなどは記録し、大事な事は特別な申し送りノートと二重にして職員全員が共有出来る様にしているが、計画に沿った記録としては不十分である。	介護計画について重要性を再確認し、最大限活用できるよう記録方法等を検討していく。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
44 (18)	<b>事業所の多機能性を活かした支援</b> 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	受診や外出等、状況を見て要望に応じている。	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
45	<b>地域資源との協働</b> 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	民生委員には運営推進会議に参加を頂いており、警察や消防にも協力を働き掛けている。又ボランティアも積極的に受け入れている。	
46	<b>事業所の地域への開放</b> 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)。	見学はいつでも受け入れている。又幼稚園や小学校の運動会などに参加させて頂く事で、GHという物を知って頂く機会を作っている。	
47	<b>他のサービスの活用支援</b> 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	母体医院のデイサービスや他デイサービスの活用を行っている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48	<p><b>地域包括支援センターとの協働</b> 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。</p>		今後地域包括センターと共同方針を検討してみたい。
49 (19)	<p><b>かかりつけ医の受診支援</b> 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>		
50	<p><b>認知症の専門医等の受診支援</b> 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>		
51	<p><b>看護職との協働</b> 利用者をよく知る看護職員(母体施設の看護師等)あるいは地域の看護職(かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等)と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>		
52	<p><b>早期退院に向けた医療機関との協働</b> 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>		
53 (20)	<p><b>重度化や終末期に向けた方針の共有</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>		書面上ではなく現実味を持ち、具体的な重度化指針を検討していきたい。
54	<p><b>重度化や終末期に向けたチームでの支援</b> 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>		書面上ではなく現実味を持ち、具体的な重度化指針を検討していきたい。
55	<p><b>住み替え時の協働によるダメージの防止</b> 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
56 (21)	<p><b>プライバシーの確保の徹底</b></p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	<p>自尊心を傷つせずプライバシーを守る対応に努め、記録等の個人情報の持ち出しは勿論、処理する場合はそのまま破棄せずシュレッダーにかけプライバシーの保護をしている。</p>	
57	<p><b>利用者の希望の表出や自己決定の支援</b></p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>例えば新聞を自由に読めるように取って頂いたり、入浴の希望時間・起床時間・就寝時間全て自由にして頂いている。</p>	
58	<p><b>“できる力”を大切にされた家事への支援</b></p> <p>家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。</p>	<p>家事以外でも本人の出来る力を活かし、継続して頂けるような事を見つけていく事も大切にしている。</p>	
59 (22)	<p><b>日々のその人らしい暮らし</b></p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>出来る限りではあるが、本人のペースに合わせて自由に過ごせるよう支援している。</p>	
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
60	<p><b>身だしなみやおしゃれの支援</b></p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>入居者のADLやその日の体調に合わせ、衣類の選択・着衣の支援をしている。又、定期的にマニキュア等希望に応じている。地域的美容院や出張カットの方の理解と協力があるので、体調や希望に応じて併用している。</p>	
61 (23)	<p><b>食事を楽しむことのできる支援</b></p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>苦手な食材や調理法があれば、その入居者の好みに応じている。食事形態も状態に応じている。準備・片付けは出来る範囲で行っている。又季節に合わせたメニューも考えている。</p>	<p>実際の調理や盛り付け配膳は職員が殆ど行っているため、提供という形ではなく共同生活という雰囲気をもっとホーム内に出していきたい。</p>
62	<p><b>本人の嗜好の支援</b></p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。</p>	<p>煙草については喫煙者なし。おやつは買い物前に希望を聞いて対応している。お酒を望まれる方はいないが、提供はしており喜んで頂いている。</p>	
63	<p><b>気持ちのよい排泄の支援</b></p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。</p>	<p>入居者のADLに応じ対応している。紙パンツを使用している場合、出来るだけトイレでの排泄が出来る様、トイレ誘導や声掛けを行っている。又、慢性の便秘を防ぐ為、水分補給には注意をしている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
64 (24)	<b>入浴を楽しむことができる支援</b> 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入居者に寄り添う時間を増やす為、1日置きの入浴としているが本人の強い希望や失禁の有無等に応じて臨機応変に対応している。		
65	<b>安眠休息の支援</b> 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。	就寝・起床時間が余りに遅い・早い場合には時間をお伝えしているが、基本的には本人の意思に任せている。又前日の睡眠時間や薬の副作用を考慮しながら夜間の良民が得られる様、配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
66 (25)	<b>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	入居時にお聞きしていた趣味や生活歴を把握し、その場面の提供を行っている。又同時に出来る事を見つけ、活躍の場が増える様配慮している。		
67	<b>お金の所持や使うことの支援</b> 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	普段、所持金は全て鍵付き金庫で事務所管理としている。外出や買い物時には利用者の状態に応じ、支払い等行って頂く事もある。		
68 (26)	<b>日常的な外出支援</b> 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	体調を考慮し、職員付き添いの下、散歩や庭に出て気分転換を行っている。又週に1~2度デイケア・リハビリも利用している。		
69	<b>普段行けない場所への外出支援</b> 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	個別外出には応じているが、普段は行けない遠出などには対応していない。お寺やお墓参りには御家族と一緒にさせて頂いている。		個別に希望を聞き出し、外出支援を行っていききたい。
70	<b>電話や手紙の支援</b> 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	年賀状や暑中見舞いは出して頂いているが、その他の手紙のやり取りはない。電話も希望されれば、深夜や早朝以外でなければ応じている。		
71	<b>家族や馴染みの人の訪問支援</b> 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	来所された方とは職員も積極的にコミュニケーションを図り、来所されやすい雰囲気作りに努めている。		
72	<b>家族の付き添いへの支援</b> 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。	今のところ希望は無いが、家族が希望されれば対応する。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
73 <b>家族が参加しやすい行事の実践</b> 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。	納涼祭やクリスマス会やボランティア来所を計画し、参加頂いている。		
(4)安心と安全を支える支援			
74 (27) <b>身体拘束をしないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	抑制・拘束はしておらず、傍での見守り・付き添い・意思を尊重した声掛けでの援助を徹底している。		
75 (28) <b>鍵をかけないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	玄関には終日施錠を行っているが、家族からは安全の為に了承を頂いており同意書も交わしている。又開錠できる状態の時は、出来るだけ開錠をしている。		
76 <b>利用者の安全確認</b> 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	日中は圧迫感を感じさせない様、出来るだけ自由に過ごして頂いている。居室で長時間過ごされる際は、安全確認も兼ねて時々声掛け訪室を行っている。夜間は基本的に2時間毎に巡室を行っている。		
77 <b>注意の必要な物品の保管・管理</b> 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	はさみ・爪切り・針等は基本的には預かっているが、手作業等に必要の場合は付き添いながら使用している。状態によっては自己管理にしている物品もある。		
78 (29) <b>事故防止のための取り組み</b> 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	マニュアルを作成し活用している。又、3ヶ月に1度母体医院の医師・看護師による事故対応勉強会も行っている。		
79 (30) <b>急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	マニュアルを作成し活用している。又、3ヶ月に1度母体医院の医師・看護師による事故対応勉強会も行っている。全職員、消防署による救命講習も受講している。		
80 <b>再発防止への取り組み</b> 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や”ヒヤリはっと報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。	可能性の時点でヒヤリはっと記入を行っており、改善策も記入している。またカンファレンスでも対応を検討し再発防止に努めている。		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
81 (31)	<b>災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。		地震・水害等に関しては
82	<b>リスク対応に関する家族等との話し合い</b> 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
83	<b>体調変化の早期発見と対応</b> 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。		
84 (32)	<b>服薬支援</b> 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。		
85	<b>便秘の予防と対応</b> 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。		
86 (33)	<b>口腔内の清潔保持</b> 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。		
87 (34)	<b>栄養摂取や水分確保の支援</b> 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。		
88 (35)	<b>感染症予防</b> 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。		
89	<b>食材の管理</b> 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
90	<b>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</b> 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関ホールには観葉植物、外には花を置き温かい雰囲気が出せるよう心掛けている。	
91 (36)	<b>居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	外光を取り入れ、緑を多くし安らぐ空間を提供するよう心掛けている。リラグゼーションミュージックなどを取り入れリラックス出来る環境作りに配慮している。	
92	<b>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</b> 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	玄関にも椅子を置き、居室以外でも個人の時間を過ごせる空間を作っている。	
93 (37)	<b>居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	御家族には、入居時に使い慣れた物品の搬入をお願いしている。又、TV・たんす・机など本人に必要とを感じるものは家族に相談し、購入して個々の部屋作りをしている。	
94	<b>換気・空調の配慮</b> 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	換気扇や窓の開放によって、空気の入れ替えを常時行っている。又エアコンを使用し、なるべく一定の温度や湿度を保つよう配慮している。	
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
95	<b>身体機能を活かした安全な環境づくり</b> 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送ることができるように工夫している。	不必要なものは配置せず、足元や頭の高さに注意をし環境づくりを行っている。	
96	<b>わかる力を活かした環境づくり</b> 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	トイレを便所と表示したり、各居室には表札を掲示している。	
97	<b>建物の外周や空間の活用</b> 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	庭には畑を作り、イモ掘りなどを行っている。花も植えて目でも楽しんで頂いている。ベランダではバーベキューをしたり日光浴にも使用している。	

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	
. サービスの成果に関する項目			
98	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	ほぼ全ての利用者の 利用者の1 / 3 くらいの	利用者の2 / 3 くらいの ほとんど掴んでいない
99	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	毎日ある たまにある	数日に1回程度ある ほとんどない
100	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
101	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
102	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
103	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
104	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
105	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	ほぼ全ての家族等と 家族の1 / 3 くらいと	家族の2 / 3 くらいと ほとんどできていない
106	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	ほぼ毎日のように たまに	数日に1回程度 ほとんどない
107	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	大いに増えている あまり増えていない	少しずつ増えている 全くいない
108	職員は、生き活きと働けている。	ほぼ全ての職員が 職員の1 / 3 くらいが	職員の2 / 3 くらいが ほとんどいない
109	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
110	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	ほぼ全ての家族等が 家族等の1 / 3 くらいが	家族等の2 / 3 くらいが ほとんどできていない